市民に親しまれる博物館をめざして（8）

今回は、昨年七月に発足した仮称都留市郷土資料館構想検討委員会より、本市にふさわしい博物館づくりをめざした最終答申をいただきましたので、その骨子を紹介します。

設置の意義

古くから城下町として発展してきた本市の歴史的特色などを、具体的資料で学習することを通して、これからの地域づくりにむけて、市民の連帯感を培い、また、リニア実験線の開通などにより増加する訪問者や、全国各地から集う都留文科大学生に対して、本市のすばらしい文化遺産や歴史を紹介する施設としての位置づけに基づき、資料を収蔵及び展示するだけの施設を越えて、郷土を学び、市民に親しまれる郷土博物館として設置する。

施設の性格

博物館は、市史編纂事業を通じて収集された資料と成果を引き継ぐとともに、八朔祭屋台と飾幕や、小山田家をはじめ市民から寄託された貴重な資料を保管展示できる施設であり、また、郷土の文化や歴史を学習できる施設として、位置づける。

なお、博物館を中心として、史跡、文化財、自然などそれぞれの場所で、散策しながら学習できるといった市内全域を「まるごと」博物館に見なすという新しいあり方に基づき、特色づくりを行う。

展示の方法と内容

博物館の展示は、常設展示と企画展示のふたつに分け、常設展示では、本市の文化や歴史を代表する実物資料を中心としたテーマ展示をめざし、参加や体験を通じて学習できるように、AV機器やパソコンなどの情報機器を充実させる。

企画展示では、独自に収集整理した資料や調査研究した成果の公開や発表の場として、随時開催する。リピーター（再訪者）の増加を期待し、企画展示の比重をできるだけ高めたものにする。

研究・調査活動と活用

博物館は、地域の文化や歴史などに関する調査や研究を担い、市史編纂事業完了後における古文書や文化財の調査、その成果の刊行や、地域編や現代編の編纂などの業務を継承できる組織の整備を行う。

また、単に展示の場としてだけでなく、郷土に関する学習センターとしての性格付けに基づき、市史編纂事業などで収集された郷土資料などの利用の便を図るとともに、各種講座や教室などを積極的に開設し、市民の学習活動との結びつきを深め、市民に親しまれ、広く活用が図られる博物館をめざす。

なお、八朔祭には、博物館をお祭りゾーンとして利用するといった地域文化との積極的関わりを重視する。

施設の内容と規模

博物館は、常設展示室と同様に企画展示室も十分な広さを確保するとともに、町並みや勝山城址を展望できる構造とする。

収蔵庫は、小山田家の寄託品以外にも、市内各家や旧村で所持している古文書や資料も受け入れていく必要があり、充分な広さの確保は重要となる。さらに、学芸員などが使用する調査研究室、地域や郷土史に関する図書資料が整備されている郷土資料室（図書室）や小規模な講演会や集会ができる講堂の設置も不可欠である。

市内の関連施設との連携

本市には、すでに商家資料館、尾県郷土資料館、増田誠美術館、ネイチャーセンターなどの施設が整備されており、博物館はこれら施設をつなぐ中核施設として、これらの施設を含めた総合的な活動を進めるため、連携を強化し、複数名の学芸員を配置して、相互に協力して運営できるような体制を整える。

また、都留文科大学には、学芸員資格の取得コースがあり、博物館実習の学生を受け入れられるような体制づくりをめざす。

以上、答申文の骨子を紹介しましたが、本年度からはいよいよ博物館の建設にむけた本格的な取り組みが開始されます。

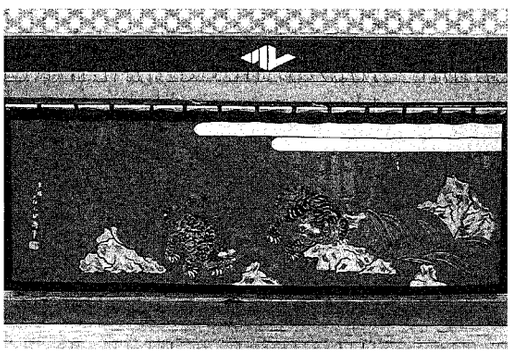
市民の皆さんのご意見をお寄せください。

一年間博物館構想の検討に携わってくださった委員は、次の方々です。

松本四郎（都留文科大学教授）
小山田了三（山梨学院大学教授）
加藤　章（上越教育大学学長）
増田廣實（文教女子短期大学部教授）
志村　弘（市議会議員）
安田久男（　〃　）
鈴木茂治（市文化財審議会）
天野正之（市生涯学習推進会議）
志村好市（下町屋台復元推進委員会）
佐藤唯一（市小中学校校長会）
長田昭明（市教育センター）

社会教育課　文化振興係

八朔祭屋台・飾幕展開催



昨年七月より建設を進めてきました八朔屋台展示庫の完成を記念して、八朔祭屋台並びに飾幕展を開催します。

今回展示するのは、平成元年より高山市の高山祭屋台保存技術組合に復元をお願いしていた下町屋台と、この屋台を豪華に彩っていた後幕「虎」（葛飾北斎によって下絵が描かれたもの）です。

また、仲町屋台の泥幕「真鯉」はこの度立派に修復が終了しましたので、当日はこの「真鯉」も、あわせて展示します。この機会に都留市が誇る文化遺産である八朔祭屋台並びに飾幕を是非ご覧ください。

期　日　4月29日
　　午前10時～午後4時
場　所　八朔祭屋台展示庫
　　（消防署の下、商家資料館の前です）
問合先　社会教育課文化振興係